

環境まちづくり 会報

編集・発行/入間市環境まちづくり会議

地球温暖化防止の

国際協定の

京都議定書が発効

温暖化の影響

- 熱射病
- 感染症(マラリアなど)
- 電力不足
- 洪水・渇水
- 農作物の減産 など

私たちの生活を守るため

環境にやさしい行動を

○ポットやジャーの保温を止める

○使わないときの電気機器は、主電源を切り、コンセントも抜く

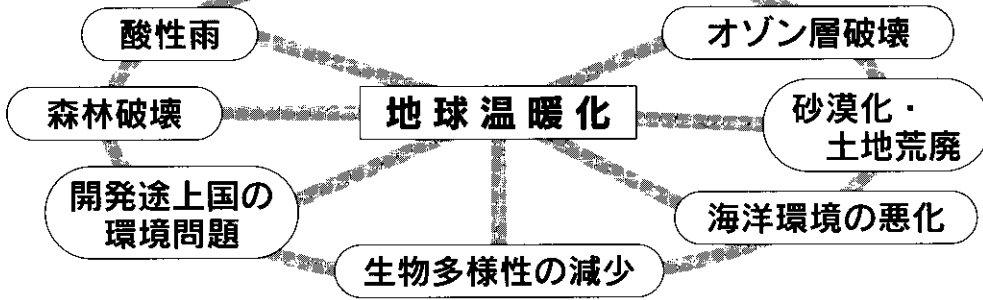
○冷房の温度を一度高く、暖房の温度を一度低く

○風呂の残り湯を洗濯に使う

○買い物袋を持ち、レジ袋を断る

○一日一時間テレビを見るのを減らす など

「温室効果ガス」の排出を削減しよう。



環境に配慮した取り組み②

HOYA(株)クリスタルカンパニー武蔵工場

環境保全への取り組み

HOYAグループでは、2年に一度「環境報告書」を発行し、一般の方々に環境情報を公開しています。グループでは、環境に対し「環境の保全は企業にとって当然の行為であり、企業が活動する上での最低条件」と位置付け「環境を壊さない企業から、環境を創る企業」を目指しています。また、グループ内には環境本部が

設置されており、定期の本部会議により、各事業所内の活動状況等を報告し、グループ間の情報交換を行っています。

武蔵工場では、平成10年12月に国際規格ISO14001に基づく「環境マネジメントシステム」を認証取得し、本年で7年目に入りました。取得以来地球環境問題、リサイクル等、幅広い視野に立ち、積極的に環境保全活動に取り組んでいます。

また、環境効率の向上面からリデュース、リユース、リサイクル、の中でもリデュースが重要との考えで、工場建屋の集約によるエネルギー削減、燃料を従来のLPGから都市ガスに転換し、環境負荷、特にCO2を15%、蒸気使用量を20%削減することに成功しました。また、都市ガスへの変換によりカロリー変動が少なくなり、製品不良率の低下から廃棄物の削減にもつながりました。

このように、企業として、いかに環境との調和を考慮しながら成長を果たすという社会的責任がより求められる時代であるため、これからも継続的改善を行うとともに、「環境を壊さない企業から、環境を創る企業」を目指し、良き企業市民として環境保護活動に、より一層取り組んでまいります。

入間市環境まちづくり会議
第5回
定期総会
5月29日(日)午後2時より
入間市民会館にて

第二回環境ウォーキング開催

五感を使って環境チェック

昨年11月20日(土)、まちを歩いて 入間を知る「五感を使って環境チェック」をテーマとした「第3回環境ウォーキング」が、入間市環境まちづくり会議主催で、一般市民57名、役員・事務局21名、合計78名が参加して行われた。当日は、歩くには最適な晩秋の、目の覚めるような晴天に恵まれた。

ウォーキングのコースは昨年と同様の次の5コース。①老人福祉センターやまゆり荘を出発する「不老川上流コース」(約5・5km)、②武道館を出発する「入間川・霞川下流コース」(約5km)、③農村環境改善センターを出発する「霞川上流コース」(約5・5km)、④藤沢公民館を出発する「不老川下流まちなかコース」(約4km)、⑤文化創造アトリエ・アミーゴを出発する「加治丘陵コース」(約5・5km)の5コースに分かれ、ゴール地点の愛宕公園をめざした。

それぞれの出発点に朝9時に集合(距離の短い不老川下流コースは10時)。昨年と同様に、参加者それぞれが「五感を使った環境通信簿」のチェックシートを手に、ポイントごとにそれぞれの判断で環境診断を行った。各コースの川辺や丘陵の自然、水質、ゴミ、街並みや緑、道路状況などを見ながら環境チェックをして歩いた。

正午までには参加者全員がゴールの愛宕公園に到着し、入間市環境まちづくり会議の岡内会長、来賓の木下市長の挨拶のあと、各コースの担当者からコースごとの感想を聞いた。歩いたあとの心地よい汗をぬぐい、入間特産の里芋を使った芋煮を食べながら、各コースで見つけた環境の様子について情報交換するなど、様々な話で盛り上がった。(木内勝司 記)

不老川上流コース

大森調整池では、埼玉県生態系保護協会の日比章子さんからカエルトンネルの話や、8月末に行われる大森池まつりの紹



▲霞川沿い

の森を抜けて第2ポイントの健康福祉センターでは、どんぐり林ウォーキンググループの萩原浩二さんから敷地林の利用や管理について自然との共生をどう図っていくのかを熱く話されました。また、センターの庭のビオトープや屋上緑化など環境共生建築としての取り組みについては職員の方から説明を受けました。(池田真幸 記)



▲大森調整池

入間川・霞川
下流コース

爽やかに晴れ渡った晩秋の空の下、集合場所の入間市武道館には総勢13名の「環境ウォーカー」が集まりました。行程なく第一チェックポイントの鍵山浄水場に到着し、木々の生い茂る「ふれあいサンクチュアリー」から入間川を臨み、周囲の環境を五感を使ってチェック。美しい風景か、嫌な臭いはしないか、騒音は聞こえないかといった人間としての素朴な感覚を頼りに身近な環境を評価しました。所々にゴミが散見されるものの、川の水は想像以上にきれいで、全体として参加者の評価は良好でした。

する会」の水村芳雄さんから、昭和20年の大水害を始めとする霞川にまつわる興味深いお話を伺いました。

せわしなく自動車が行き交う国道16号線から道一つ隔てただけで、水と緑に彩られた閑静な街路が続いていました。市街地の喧騒の中に現れた格好の散策道に驚きと喜びを感じながら、最後のチェックポイント・豊高橋を通過、予定の正午少し前にゴールの愛宕公園に到着しました。

数年来にわたる地域の人々の努力により、入間川・霞川ともに流れも周囲の環境も改善されているように感じられました。日頃の忙しい生活の中、見落としがちな身近な自然に触れ、地域の環境に思いを致す貴重な秋の一日となりました。(新井 格 記)

出発点の農村環境改善センターから15分ほど歩いて、大字花ノ木地区の霞川に到着。霞川はブロック護岸で固められた人工的河川ですが、河床は比較的多様で、瀬や淵、砂利川原や水際の湿性植物が繁茂しているところもあり、自然的な風情が感じられるところもあります。周囲を加治丘陵に囲まれており、茶畑の風景や大きなケヤキの木が点在する屋敷林もあり、ふる

第3回環境ウォーキング・五感を使った環境通信簿・診断結果の概要

コース名	診断ポイント	評価	診断結果	処方箋
①不老川上流	大森調整池	4~5	自然が多い	地域パトロール
	健康福祉センター	3~5	環境と共生	環境に配慮
	イオン入間店	4~5	歩道に木の葉多い	維持管理
	はげ	2~5	川底さらい必要	定期的な清掃
	六地藏	1~5	桜が切られて残念	桜の若芽を大事に
②入間川・霞川下流	サンクチュアリ	3~5	前年よりよい状態	楽しめる公園に
	笹井ダム	2~4	ゴミある、水きれい	定期的清掃
	霞川	3~5	ゴミ多少、水きれい	川を大切にしていきたい
	河原町	3~5	河川敷がきれい	さらにより環境を
	豊高橋	3~5	水量が多くきれい	啓発
③霞川上流	中神の橋	2~4	景色がよい、ゴミ	清掃
	中島園付近橋	3~4	川蛇行、景色よい	水辺への階段、遊歩道
	清水橋	2~4	桜並木、景色よい	護岸の緑化
	一二三橋	2~4	水が汚い	排水対策、景観改善
	歩道橋	2~4	河岸の樹林がよい	水質改善
④不老川下流まちなか	不老川	2~4	水きれい、カモいる	魚がすめるように
	市民の森	2~5	自然が多い	ゴミ拾い
	東町小	4~5	ピオトープ取組よい	維持管理
⑤加治丘陵	グリーンロッジ	2~4	ゴミが散乱	定期的な清掃
	東金子小	4~5	ピオトープよい	これからも続けてほしい
	圏央道横断	1~3	丘陵分断、騒音ガス	啓発、雑木林をつなぐ
	牛沢	2~5	湧水、ピオトープよい	いつまでも残してほしい



▲霞川

中神の橋は第一の環境調査ポイント。景色がきれいだがヘドロが多い、ビニール系のごみが多いなどの診断。
茶工場中島園付近の橋では、川の蛇行具合がよい、景色がよい、蔵や川のかたちが調和しているが、川が濁っているという診断でした。
清水橋では、霞川にはオイカワの稚魚と思われる群れが見られました。昨年もここでオイカワの群れが見られましたが、こうした元々霞川にいた稚魚が戻ってきているのはうれしいこととです。

このコースは距離が一番短く集合時間も他より一時間遅かったためか、COM電子さんからの団体での参加を含め総勢23名の老若男女豊かな楽しい環境ウォーキングとなりました。藤沢公民館から出発し、不老川沿いの歩道を歩きながら3カ所をポイントとしてチェックした所、

不老川下流
まちなかコース

最後の診断ポイントとなった歩道橋のところでは、河岸の大きな樹木が川と一体化している眺めがよいなど景観的にはよい診断でしたが、生活排水の混入でだんだん水質が悪くなってきているようでした。川岸の樹木などの周辺の自然を保全するとともに、水質改善の努力をしていく必要があると感じました。
(木内勝司 記)

国道16号の橋から下流は、周辺の樹木や川の様子も自然的で天気もよく、カルガモなども見られるのんびりとした風情に、しばし憩いのひとときを過ごしました。
最後の診断ポイントとなった歩道橋のところでは、河岸の大きな樹木が川と一体化している眺めがよいなど景観的にはよい診断でしたが、生活排水の混入でだんだん水質が悪くなってきているようでした。川岸の樹木などの周辺の自然を保全するとともに、水質改善の努力をしていく必要があると感じました。
(木内勝司 記)

泡、水辺の草の少なさが気になるため、更に水質改善の啓発を進めた方がよいという感想もありました。
不老川沿いを離れ、次のポイントの東町市民の森・東町小学校ピオトープでは、車や飛行機の騒音が少し気になるが、自然の香り、鳥の声を聴けてとても癒されたとの感想が殆どで、今後もこの様な場所を更に増やし、沢山の市民へ周知させて欲しいとの声がありました。
最後まで無事に楽しくウォーキングできましたが、役員2人だけだったため、少しハラハラさせてしまう場面がありちよつと反省です。
(菅沼満美 記)



▲藤沢公民館を出発

加治丘陵の自然を「先人から受け継ぎ、後世に引き継がなければ」と改めて体感したウォーキングでありました。
(谷口秀男 記)

加治丘陵コース

仏子の文化創造アトリエ「アミーゴ」に18人が集合し、環境診断においては60%が視覚により決まるので「目をつぶって」の診断をお願いし、老若男女18人が元氣よくコース走破をめざし9時15分に出発しました。
今年から牛沢「ホタルの生息地」をコースに加え、身近な自然保護活動の地を見学することが出来た楽しい環境ウォーキングであって、最終ランナーとして12時03分にゴールの愛宕公園に到着出来ました。
加治丘陵の自然を「先人から受け継ぎ、後世に引き継がなければ」と改めて体感したウォーキングでありました。
(谷口秀男 記)



▼入間川沿い

会員の声

我が家のゴミ分別

我が家の台所には、大きなゴミ入れが2個並べてある。可燃物とビニール類プラスチック用である。他にビンの袋、缶の袋、不燃物の袋、ペットボトルの袋、牛乳パック、乾電池、新聞チラシ、段ボール、古布、発泡スチロールなどの袋が転がっている。生ゴミは洗いの隅にまとめ置き、庭のポリバケツで堆肥にする。

この分別法が確立して10年ぐらいいなるが、その間は家内に何度となく注意を受けた。最初の頃は「分別」の意義をよく理解していなかったため、ただ

面倒くさいと感じたことを記憶している。すべて家内の努力の結果今日に至ったのであるが、鈍感な私にもようやくその意義、リサイクル社会の重要性が納得されるようになってきた。

ここ数年の異常気象は、誰の目にも明らかになってきている。早急に広範な対策が必要なのだろうが、一市民の立場でやれることは限られている。取りあえず、各家庭のゴミ分別は身近で可能な方策のひとつである。

小谷田 田中 伸一

子供の遊び場

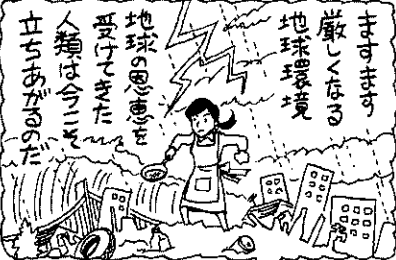
私が子供の頃（昭和40年代）には、家の近所に沢山の野原や空き地がありました。いつも子供たちが野球をしたり自転車で乗ったり駆け回って遊んでいました。今ではそんな遊び場も無くなり、所々に作られた申し訳程度の子供公園では野球のよう

▼湧水地・谷田の泉（野田）



な遊びもできなくなりました。通りから一步入った裏道は、ほとんどが砂利道だったと記憶しています。小学校低学年の頃は、愛宕神社裏の一面にあった笹藪の中（今の愛宕公園の辺り）に出来た、迷路のようなトンネルの中で遊ぶのが大好きでした。今になっては楽しかった遊び場の多くが、どこにあったのかさえもわからないほど人間市もすっかり変わってしまいました。未来の子供たちに緑や土の匂いを少しでも多く残してあげられるよう、環境を考えたまちづくりをしていかなければと思います。

扇町屋 児玉 任司



編・集・後・記

早いもので、年間3回の会報も最終号となりました。16年度もまだまだ微力の私たちの会ですが、発足二期目を終えようとしております。この4年での大きな変化としては、部会が立ち上がったことでしょうか。来年度からは、もっと多くの会員の方から新しい部会が生まれることを楽しみにしています。そして部会がそれぞれの力を発揮し、ときには力をあわせ、この人間市環境まちづくり会議が充実したものになるよう、進んでいきたいなあ...と。

(二ノ宮)

生涯学習フェスティバルに参加

昨年11月28日(日)、第10回いるま生涯学習フェスティバルが、産業文化センターを中心に開催され、150の団体と多くの市民が参加いたしました。当会議も実行委員会の段階から積極的に参加しました。

フェスティバルは、テーマが「環境保全活動とまちづくり」のグループに入り、「守ろう宇宙船地球号」地球環境は地域が救う、「エコツアー in 生涯学習フェスティバル」を掲げ、パネルの展示・ポスターの作成・クイズラリーの実施など、市民にエコ活動の大切さを知ることが大切なることを訴えました。

特に、一家庭から出るゴミの中で最も減量が表れやすい生ゴミを対象とし、その処理方法を学び、家庭で実践していくきつ

かけとする一ことを趣旨として、狭山市の大友弥生さん(狭山市生ゴミ資源化をすすめる会会長)の講演会をメイン行事とすることに力を尽くしました。講演の内容は、極めて分かりやすく現実的で誰にも実行可能なものでした。今後、ごみ部会の活動に活かしていきたいと思えます。

(川村 光雄 記)



人間市環境まちづくり会議

事務局：人間市役所環境経済部環境課
住所：〒358-8511 人間市豊岡1丁目16番1号
TEL：04-2964-1111(内線1241,1243)
FAX：04-2965-0232
E-mail：ir210100@city.iruma.lg.jp